

基礎看護学（健康科学領域）

1 構 成 員

	平成23年3月31日現在
教授	3人
准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
助教(うち病院籍)	1人 (0人)
助手(うち病院籍)	0人 (0人)
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	0人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	1人
その他(技術補佐員等)	0人
合計	5人

2 教員の異動状況

渡邊 泰秀 (教授) (H14.6.1～現職)

三浦 克敏 (教授) (H18.4.1～現職)

永田 年 (教授) (H18.4.1～現職)

山下 寛奈 (助教) (H17.10.1～19.3.31 助手；19.4.1～現職)

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成22年度
(1)原著論文数(うち邦文のもの)	5編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	8.83
(2)論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3)総説数(うち邦文のもの)	3編 (2編)
そのインパクトファクターの合計	1.75
(4)著書数(うち邦文のもの)	0編 (0編)
(5)症例報告数(うち邦文のもの)	1編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.78

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Watanabe Y, Kimura J. Inhibitory effect of azimilide on $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchange current in guinea-pig cardiac ventricular cell. J Pharmacol Sci. 114 (1), 111-114, 2010. [2.176]
2. Miura K, Yaguchi C, Furuta N. HPV 18 or 16-positive glassy cell carcinomas showing both squamous and granular features in immunohistochemistry. Acta Cytologica 54(3)Suppl:493-494, 2010. [0.690]
インパクトファクターの小計 [2.87]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Uto T, Tsujimura K, Uchijima M, Seto S, Nagata T, Suda T, Chida K, Nakamura H, Koide Y: A novel vaccine strategy to induce mycobacterial antigen-specific Th1 responses by utilizing the C-terminal domain of heat shock protein 70. FEMS Immunol. Med. Mic., 61, 189-196, 2011, [2.34].
2. Yamamura Y, Tsujimura K, Seto S, Uchijima M, Hozumi H, Nagata T, Koide Y: Immunogenicity of latency-associated antigens of *Mycobacterium tuberculosis* in DNA-vaccinated mice. Procedia in Vaccinology, 3, 19-26, 2010, [未定].
3. Eweda G, Suzuki D, Nagata T, Tsujimura K, Koide Y: Identification of murine T-cell epitopes on low-molecular-mass secretory proteins (CFP11, CFP17, and TB18.5) of *Mycobacterium tuberculosis*. Vaccine, 28, 4616-4625, 2010, [3.62].
インパクトファクターの小計 [5.96]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Nagata T, Koide Y: Induction of specific CD8^+ T cells against intracellular bacteria by CD8^+ T-cell-oriented immunization approaches. J. Biomed. Biotechnol., Article ID 764542, 2010, [1.75]
2. 永田 年、小出幸夫：結核菌に対する T 細胞誘導ワクチンの試み。日本細菌学雑誌, 65 (2)、309-324, 2010, [0.00].
インパクトファクターの小計 [1.75]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 磯田治夫, 竹原康雄, 三浦克敏, 徳山勤。特徴的な局所進展を示す悪性腫瘍 small round cell tumor の画像診断－中枢神経系。臨床画像、26:49-59, 2010.
インパクトファクターの小計 [0.00]

(5) 症例報告

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Yaguchi C, Oi H, Kobayashi H, Miura K, Kanayama N. A case of intravenous leiomyomatosis with

high levels of hyaluronan. J Obstet Gynaecol Res. 36(2):454-8, 2010. [0.777]

インパクトファクターの小計 [0.777]

4 特許等の出願状況

	平成22年度
特許取得数(出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成22年度
(1) 文部科学省科学研究費	3件 (170万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

三浦克敏(代表者) 挑戦的萌芽研究「超音波顕微鏡を用いた癌および沈着症の補助診断法の開発」50万円(継続)

三浦克敏(分担) 基盤研究(C)「頭頸部癌の上皮間葉移行に関する臨床的および基礎的研究」10万円

永田 年(代表者) 基盤研究(C)「結核菌低分子量分泌タンパク T細胞エピトープの同定と抗結核菌ワクチンへの応用」110万円(継続)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	3件
(6) 一般演題発表数	4件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

1. Yamamoto S, Muramatsu M, Azuma E, Dohmoto M, Koo BN, Mukouyama Y, Osawa T, Takahashi H, Takano KI, Watanabe Y, Ikutani M, Nagai Y, Takatsu K, Usui I, Tobe K, Niida S, Shibuya M, Matsuda N, Hattori Y: NG2 positive cerebral microvascular pericytes are potentially derived from circulating myeloid progenitors. The 16th International Vascular Biology Meeting, UCLA, Los

Angeles, California, USA, 20-24 June, 2010.

2. Watanabe Y, Kimura J, Yamashita K, Yamakawa T, Iwamoto T. Electrophysiological properties of YM-244769, a novel and potent Na⁺/Ca²⁺ exchange inhibitor, in cardiac ventricular myocytes of guinea pig. 16th World Congress on Basic and Clinical Pharmacology, Copenhagen, Denmark, 17-23 July, 2010.
3. Miura K, Yaguchi C, Furuta N, : HPV 18 or 16-positive Glassy Cell Carcinomas showing both squamous and glandular features in immunohistochemistry. Cytology 2010, Edinburg, Scotland, May 16-20, 2010.
4. Nagata T, Eweda G, Suzuki D, Tsujimura K, Koide Y: Identification of murine T-cell epitopes on low-molecular-mass secreted proteins of *Mycobacterium tuberculosis*. Keystone Symposia, Tuberculosis: Immunology, Cell Biology and Novel Vaccination Strategies, Vancouver, USA, January 15-20, 2011.

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

渡邊泰秀

日本薬理学会評議員

三浦克敏

日本病理学会評議員

日本臨床細胞学会静岡県支部理事

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0件	1件

(2) 外国の学術雑誌の編集

1. 永田、Journal of Vaccine and Vaccination (米国)、Editorial Board、PubMed 登録有、IP [未定]

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

渡邊泰秀

1. Life Science (米国) 1回
2. Journal of Pharmacological Science (日本) 1回
3. Biological and Pharmaceutical Bulletin (日本) 2回

永田 年

1. Microbiology and Immunology (日本) 1回
2. Cellular & Molecular Immunology (中国) 1回
3. Ecological Indicators (米国) 1回
4. Vaccine (米国) 1回

9 共同研究の実施状況

	平成22年度
(1)国際共同研究	0件
(2)国内共同研究	1件
(3)学内共同研究	1件

(2) 国内共同研究

1. 福島県立医科大学薬理学講座、福岡大学医学部薬理学講座と「Na/Ca 交換輸送体と抗不整脈薬など心臓保護作用を有する薬物との関係」について共同研究を行っている。(渡邊、山下)

(3) 学内共同研究

1. 感染症学講座（生体防御部門）と“結核菌に対する T 細胞応答”をテーマに共同研究をしている。結核菌の急性感染期の代表的抗原である低分子量分泌タンパク (CFP11, CFP17, TB18,5) および急性期・休眠期の代表的抗原 MDP1 を中心にしてマウスおよびヒトの優勢 T 細胞エピトープの同定をおこなった。(永田)

10 産学共同研究

	平成22年度
産学共同研究	1件

1. 本多電子、光量子医学研究センター、愛知工業大学、豊橋技術科学大学との超音波顕微鏡の共同研究を行っている。超音波顕微鏡の病理標本への応用で、アミロイド沈着や肺線維化の診断への応用可能性について研究を続けている。(三浦)

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 「ふれあいサイエンスプログラム」の実施：高校生（20名）を対象に生物系の異なる3分野（病理、薬理、微生物）の教官による指導のもと高校の授業では体験できない実験を行った。高校生自らが実習、観察を行うことで理系科目への関心を高めることを目的とし、今後につながるプロジェクトに発展させることが出来た。平成22年12月23-24日 看護学科棟6階
2. 浜松医科大学のオープンキャンパス（7月開催）では模擬授業をおこない、解剖・病理の標本展示をおこなった。